



## 環境保全の知見や手法を世界にひろげ、 次世代とともに学ぶ方法を考える

### 学生が担う地域活性化と環境保全

＜研究・活動名＞学生ボランティアと地域活性化による環境保全の連携に関する研究

＜代表者 / 団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 加藤基樹 / WAVOC まつだい  
早稲田じよんのび交流プロジェクト

新潟県十日町市松代地区の棚田の保全活動を行うとともに、菜の花を植え、作業や花見会を通し住民との交流を図りながら、自治会活動へも携わり、以前は活動に関わらなかった住民をプロジェクトへ取り込むきっかけを創出し、地域おこし協力隊との連携も図り、幅広い年齢層の参加が可能なシステムを検討し、実現してきました。地域(新潟県十日町市)からの評価も高く、ボランティア活動の計画手法、誘導手法の研究をベースに今後の各種地域活動が期待されています。(2009年7月より半年に一回の審査を受けて継続中)

### 被災地における知の対話

＜研究・活動名＞大震災・原発事故 VS 科学・宗教－社会規範再形成への実証研究

＜代表者 / 団体＞早稲田大学大学院アジア太平洋研究センター名誉教授 原 剛 / 日本環境ジャーナリストの会

大震災を契機に、ジャーナリズムは単なる客観報道から提唱、課題設定キャンペーン報道に重心を移しつつあります。コミュニティの離散を拒否する被災地のエートス(精神構造)と巨大な産業技術文明(原子力の科学)との相関、共生、反発の諸相を現場の地域社会で検証し、社会規範の再形成へのベースライン(prototype)を見出すことを試み、知の対話を踏まえた出版等を進めています。(2011年7月より半年に一回の審査を受けて継続中)

### 地域の人々と学生の交流から環境問題を考える

＜研究・活動名＞日本とマレーシアの国際交流による環境意識の育成

＜代表者 / 団体＞早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター助教 岩井雪乃 / WAVOC「海外ボランティアリーダー養成プロジェクト(ホルネオ)」

日本国内およびマレーシアサバ州コタキナバル市において活動を行い、ゴミ認識と廃棄行動の関係性を明確にし、小学生が環境および衛生に関する知識を身につけ、主婦層のゴミへの意識が向上するといった成果を得ました。また、サバ人学生が移民との個人的つながりを形成するとともに、日本およびマレーシアの青年が社会のあり方や生き方を問い直すきっかけを得ることができました。(2012年6月終了)

## 離島を楽しみ学ぶプログラムの研究開発

＜研究・活動名＞豊島発 歴史、文化と環境学習融合プログラムの開発～自然ゆたかな豊島を楽しみながら学ぶ人類の営みと生活史～

＜代表者 / 団体＞徳島大学埋蔵文化財調査室助教 遠部 慎 / 豊島 島づくり委員会

瀬戸内の豊かな自然がいきづく楽園であると同時に、現代社会の矛盾のしわ寄せである産業廃棄物不法投棄問題で苦しんだ豊島を、自然環境破壊と文化や生活破壊を同じレベルで捉え、新たな価値の形成を実践し、体験型環境学習コンテンツとして展開し、地域の観光資源に繋げるといった研究・実践を行いました。(2012年6月終了)



写真 (加藤プロジェクト)  
棚田の田植え (左)  
雪おろしボランティア (中)  
地域の人たちとの調理交流 (右)



写真 (岩井プロジェクト)  
現地小学校での環境教育 (左)

(原プロジェクト)  
被災地取材 (中)

(遠部プロジェクト)  
発掘作業 (右)



# 2012年7月～2013年6月期 新規採択案件

## ◎企業や生活者がともに自然と共生していく方法を考える

- ・住民参加による荒廃地森林造成および生物多様性向上（継続）
- ・被災地と首都圏の女性の交流による、復興を促進するネットワーク形成、および環境コミュニティビジネス・インキュベーション研究事業（新規）
- ・本業 CSR と人材育成を通じた「農山村－都市」連携（継続）
- ・耕作放棄地を“自然との共生の在り方”を学ぶ場とするロールモデルの作成（継続）

## ◎資源を大切に使い循環させる仕組みを、生活者とともに考える

- ・豊富な水資源「尚仁沢湧水」を地域活性化の為に保全活用する仕組み作り（新規）
- ・世界遺産五箇山合掌造り集落における植物資源循環の再生プロジェクト（新規）
- ・10万馬力新宿サイダープロジェクト（新規）
- ・新潟県佐渡市 トキ舞う加茂湖の水辺のふるさとづくりプロジェクト（継続）

## ◎2050年の視点からCO<sub>2</sub>を減らす方法を、生活者とともに考える

- ・企業と学生によるビジネスからの持続可能な社会の実現～環境ビジネスプラン創出と企業の環境活動の効果的な発信～（継続）
- ・東北復興を契機に日本を持続可能な社会へ～森林およびバイオマス資源の適正利用を中心に～（継続）
- ・被災地いわきにおける再生可能エネルギーを核とした地域づくりに資する人材育成（新規）

## ◎環境保全の知見や手法を世界にひろげ、次世代とともに学ぶ方法を考える

- ・「いばらき自然エネルギーネットワーク」を活用した地域人材育成（継続）
- ・学生と地域住民の連携による地域モデルとその環境保全に関する研究（継続）
- ・ふゆみずたんぼを通じた CEPA (Communication, Education and Public Awareness) の実践研究（新規）
- ・大震災・原発事故とジャーナリズム－社会規範再形成への実証研究（継続）
- ・次世代エコチャレンジャー養成活動（新規）



写真 有機米の田んぼ風景と有機栽培に役にたつ鳥たち  
(マガンと白鳥)

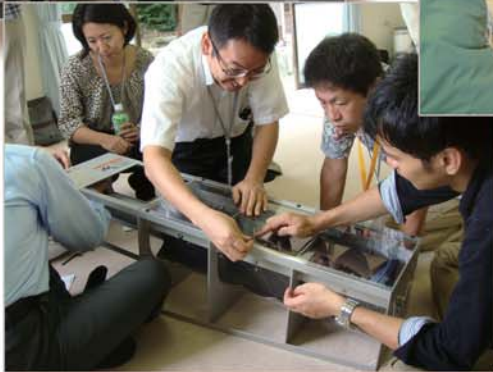


写真 ソーラー街灯（左上）  
小水力発電水車の作製（左下）  
ソーラーパネルの手作り（右）

W-BRIDGE は、委託した各種研究・活動との連携のもとに、「生活者 / 地域」、「大学」、「企業」の3者を結び、より効果的かつ実生活に根ざした「地球環境問題への貢献」といった目的を達成するための、様々な活動を実施しています。



写真 上2枚：森林教室

左下：木の大きさの計測

右下：森の仕組みを学ぶクイズ



## B・フォレスト エコピアの森

ブリヂェストンが、低燃費タイヤ「ECOPIA」の売り上げの一部を活用し、全国8箇所※で森林整備や森林教室を行う「B・フォレスト エコピアの森」プロジェクトに対し、W-BRIDGE は環境教育活動の企画・実施の支援を行っています。

本活動では、W-BRIDGE に関わる専門家や学生が積極的に参画しており、小学校高学年の親子を対象にした森林の機能を学ぶフィールドワークをサポートしています。こうした交流を通じて、環境教育活動の在り方についての重要な知見を得ることが可能となったほか、これに関連して、森林保全活動に関する評価手法、地域植林活動における自治体との連携手法、間伐材の活用手法などの研究にも進展しています。

※2012年12月現在

## <学術関連活動>

W-BRIDGE では、各プロジェクト、事務局による学術専門誌への論文投稿はもちろんのこと（2011年に佐渡プロジェクト関連論文が感性工学会論文賞を受賞）、2010年1月 日本エネルギー学会バイオマス科学会議協力、2012年11月には独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター環境・エネルギー領域との共催で研究報告会を開催するなど、W-BRIDGE と関係する各学術分野で積極的な活動を展開しています。また、独自のシンポジウム・成果報告会も年数回のペースで実施しているほか、研究会を頻繁に開催し、各プロジェクトの質の向上に取り組んでいます。

## <成果の社会普及活動>

W-BRIDGE では、研究・活動した成果を社会で活用して頂けるよう、行政などへの政策提案活動を各プロジェクト横断的に実施しており、その一環として、各種の表彰や提案募集への積極的な応募を進めています。この結果、環境省などが主催する「eco japan cup 2012 市民が創る環境の街」“元気大賞”の最終審査に、やんばる国頭の森でのプロジェクト、新潟県佐渡市でのプロジェクトがノミネートされるなど、大きな成果を上げつつあります。また、各プロジェクトの自主的な政策提案活動先も総務省、茨城県、新潟県佐渡市など多岐にわたっています。W-BRIDGE では、プロジェクトを単に継続させるのではなく、プロジェクトが段階的に成長することを支援しており、次の展開に至る積極的な「卒業」を奨励しております。その一例として、プロジェクトが大きく発展し、W-BRIDGE から国のプロジェクトに引き継がれたもの（香川県豊島でのプロジェクト他）なども出ております。

## <震災復興支援、研究成果活用>

2012年12月現在、W-BRIDGE では、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、長野県の各被災地で、合計6件のプロジェクトが研究・活動を展開しており、震災復興にも一定の寄与をしています。また、各地（被災地以外も含む）で得られた成果を、W-BRIDGE モデルとして活用して頂くため、情報発信や人材育成のプロジェクトの実施とともに、総務省地域力創造グループ、Google 等と連携により、波及効果の拡大を図っております。

写真 W-BRIDGE 成果報告会  
(早稲田大学小野記念講堂)



## アドバイザー・ボード

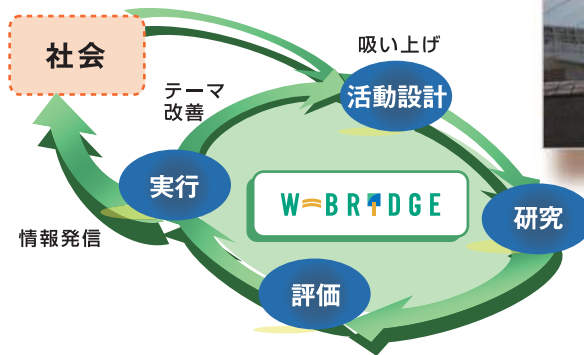
W-BRIDGEには本プロジェクトの趣旨にご賛同いただいた各界の専門家から構成されたアドバイザー・ボードが設置されています。研究領域・研究成果に対して随時助言をいただき、活動内容に反映しています。

(敬称略、五十音順)

- 池上清子 (環境と開発途上国問題の専門家)
- 大橋 力 (文明科学研究所長・芸能山城組主宰)
- 小畑秀文 (国立高等専門学校機構理事長)
- 崎田裕子 (ジャーナリスト・環境カウンセラー)
- 西岡秀三 (国立環境研究所特別客員研究員)
- 原 剛 (早稲田環境塾塾長)
- 三村信男 (茨城大学教授)
- 渡辺弘之 (京都大学名誉教授)



### ■ W-BRIDGEの機能



# W-BRIDGE

「W」と「B」の間の二重線、ここに「二つの架け橋」の思いを込めました。つまり、産学の架け橋、そして、生活者との架け橋、の二つを表しています。また「I」の部分は、環境保全の代表的な対象である「木」のイメージ、そして青い部分が「地球」を表しています。私たちは、地球環境分野において、従来の産学という連携に加え、地球に生活している人々をも結ぶ二つの架け橋、名前の通りダブルブリッジになりたいと考えているのです。



写真 右2枚（桑子プロジェクト）  
左2枚（納富プロジェクト）  
下（島谷プロジェクト）



◆執行組織（運営委員兼任）

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 代表              | 堀口健治（早稲田大学）  |
| 副代表             | 堀尾正韜（早稲田大学）  |
| 副代表             | 勝田正文（早稲田大学）  |
| 副代表             | 平田 靖（ブリヂストン） |
| 研究マネジメントチームリーダー | 岡田久典（早稲田大学）  |
| 事務局長            | 永井祐二（早稲田大学）  |
| 研究員             | 中島勇介（ブリヂストン） |

◆運営委員

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 松田 明（ブリヂストン） | 大聖泰弘（早稲田大学） |
| 柴田唯志（ブリヂストン） | 永田勝也（早稲田大学） |





# W-BRIDGE '12年度活動報告



2012年 12月13日 発行

発行 早稲田大学環境総合研究センターW-BRIDGE  
〒162-0041

東京都新宿区早稲田鶴巻町 513

研究開発センター 3-102

TEL:03-5292-3526 FAX:03-5292-3527

E-mail:w-bridge@list.waseda.jp

URL:www.w-bridge.jp/

制作 W-BRIDGE

協力 西尾ゆかり

2012 Printed in Japan © W-BRIDGE